

松本市中央図書館の概要について

征 矢 一 男 （松本市中央図書館）

1 はじめに

信州大学附属図書館との連携については、平成 17 年 6 月 13 日に締結された「信州大学と松本市との連携に関する協定」に基づき双方が連携を図ることとするなか、平成 21 年の 12 月に笹本正治信州大学副学長兼附属図書館長が来館され連携協力を提案されたことを契機に、平成 22 年 7 月 15 日に信州大学附属図書館は、松本市中央図書館との間に連携協力に関する覚書を締結し、また同様に塩尻市、安曇野市の各図書館とも図書館活動における連携協力に関する覚書を締結され今日に至っています。

そのような背景のもと、今回松本市中央図書館の紹介をさせていただくにあたり、当館の沿革及び概要、所蔵している特別文庫の紹介並びに利用状況の推移などについて以下に記したいと思います。

松本市中央図書館は、その前身である「開智書籍館」^{かいちしょじやくかん}が、明治 24 年 5 月 26 日に松本尋常高等小学校内に設けられたのが始まりとなり、以来本年度で 123 年となります。

沿革については、平成 11 年 6 月 4 日に松本市中央図書館長が松本市図書館協議会に諮問し、平成 12 年 3 月 22 日に答申した「『生涯教育（学習）を推進するための社会教育機関として今後の松本市の図書館運営のあり方について』の答申書」に詳細な記載があるため、ここからの抜粋・引用を中心に記述させていただきました。

2 沿革及び概要

(1) 図書館施設の変遷

- ア M24.5.26 「開智書籍館」設置（松本尋常高等小学校内、南深志町字本町の女鳥羽川沿い）
- イ M39.9 松本尋常高等小学校内の『明治三七、八年戦役記念館』に移動。「開智図書館」と命名
- ウ T10.2.11 「松本図書館」と改称し、市営図書館として北深志葵の馬場『旧武徳殿』に移転
- エ S12.4 「市立松本図書館」に改称
- オ S13.7 松本城の一角、北深志二ノ丸町に移転
- カ S18.9 葵の馬場『旧武徳殿』に再移転
- キ S34.4 大名町の地方事務所跡（M34 年建築の元郡役所建物、場所は現在の松本信用金庫本店所在地）に移転
- ク S43.1.25 開智 2 丁目（現中央図書館南側駐車場）に移転新築
- ケ H3.10.1 「松本市中央図書館」として蟻ヶ崎 2 丁目（現在地）に移転新築

(2) 中央図書館の施設概要

- ア 位 置 松本市蟻ヶ崎 2 丁目 4 番 40 号
 イ 敷地面積 4,303㎡、駐車場：2,234㎡ 計 6,537㎡
 ウ 構 造 鉄筋コンクリート造・地上 3 階建て
 エ 建築面積 1,932.25㎡
 オ 延床面積 4,831.64㎡
 カ 総事業費 19 億 5,220 万円
 (まちづくり事業債充当)
 キ 竣 工 平成 3 年 9 月 25 日
 ク 開 館 平成 3 年 10 月 1 日



(3) 図書館の沿革

ア 変 遷

はじめに、開智書籍館当時は教師を中心とする会員制で、会費は月 5 銭以上、生徒は半額というスタイルでスタートしました。

明治 40 年 5 月 1 日に市制を敷いた松本市ですが、明治 41 年当時の蔵書数は 2 万 5 千冊を超えています。

昭和 12 年に「市立松本図書館」となった際には、閲覧料は無料でしたが、館外持ち出しについては、保証人と保証金が必要でした。この制度が廃止されたのは、昭和 43 年の開智 2 丁目への移転新築に際してのことでした。この「市立松本図書館」は、延床面積 1,489㎡で現在の施設の 3 分の 1 ほどのもので、蔵書数は 7 万 3 千冊でした。

現在の中央図書館の蔵書数は 60 万冊で、その 8.2 倍、分館を含めた松本市の図書館全体の蔵書数 116 万冊は 15.9 倍という規模となります。

イ 戦後の図書館活動

次に、戦後の図書館活動などについてみてみますと、積極的に、読書会や PTA 母親文庫、図書館友の会など市民との結びつきを広める活動を行ってきました。

〈松本図書館協会〉

昭和 25 年 6 月 5 日には、武居権内（信州大学図書館）、百瀬潔（深志高校）、玉川公也（蟻ヶ崎高校）及び北原邦夫（市立松本図書館長）が市立松本図書館に集まり、図書館関係者の研究会を立ち上げるための協議をし、準備会を重ねたのち同年 11 月 28 日に 67 名参加のもと「松本図書館協会」が発足しました。同年 12 月 9 日には「長野県図書館協会」が発足したことにより、その「松本支部」という役割も帯び活動していくこととなりました。

その後昭和 27 年 12 月 4 日に「松筑図書館協会」に移行するため松本図書館協会は解消し、さらに昭和 38 年に高校図書館、大学図書館が退会したことなどを経て、昭和 42 年 3 月をも

って「松筑図書館協会」は解散をしました。

〈松本図書館友の会〉

図書館友の会については、昭和 27 年 3 月 15 日に中学生を含む約 80 人の参加を得て「松本図書館友の会」が結成され、利用者要望について図書館側に伝え、一緒になって考えるなどしていました。

〈小笠原読書会〉

昭和 27 年ころ小笠原忠統館長が、読書の大切さを強調して始めた読書会活動が青年団や婦人会に受け入れられ、館外活動として広がりを見せて注目を浴びるようになり、昭和 29 年に長野県読書大会が浅間温泉で開催され、翌年「長野県読書会連絡会」が発足。昭和 32 年 5 月には「松本読書会連絡会」が結成されました。

〈PTA 母親文庫〉

PTA 母親文庫自体は、県立図書館の館外活動として始まったものですが、松本地域においても昭和 28 年 11 月 11 日に松筑配本所が設けられ、初回の配本が行われました。発足時は 4 小学校でスタートしたのですが、昭和 34 年には利用校 17 校（うち松本市内 11 校）利用者 6,080 人に達し、その後昭和 50 年代には千数百人の利用に減じました。

昭和 51 年に、配本所が筑北と松本に分かれたことにより、松本市分は市立松本図書館の団体貸出の対象となっていきました。そして、平成 5 年に松本市 PTA 母親文庫参加校が 1 校となり、母親文庫の活動を終えることとなります。

ウ 分館整備計画

分館配置を進める契機となったのは、“身近な地域に図書館を”との強い住民ニーズによる運動の広がりによるもので、「第 1 次図書館分館整備計画」に基づき整備が進められることとなりました。昭和 54 年 10 月に第 1 号の分館として「あがたの森図書館」が開設されたのを手始めに、以降別表に記載のとおり、西部、南部、寿台の分館が設置され、平成 6 年 4 月に本郷公民館図書室（平成 11 年 4 月に分館化）が開設され整備計画は完了となり、これにより人口集中地区に居住する人のほとんどは自宅から 1.5Km の距離に分館を持つこととなりました。

引き続き「第 2 次図書館分館整備計画」により、中山、島内と開設され、平成 14 年 4 月には空港図書館が開設されて、この時点で 8 分館が整備され初期の計画は達成され完了となりましたが、その後、近隣町村の合併などにより波田図書館を分館化し（平成 22 年 3 月）、梓川図書館を新設（平成 24 年 5 月）して現在の 10 分館体制となりました。第 1 次整備計画により設けられた図書館は、すべて複合施設内に設けられたものでしたが、その後のものは、市町合併以前の既設館の波田図書館を除きすべてが単独館として整備されました。

現在分館施設を持っていない合併地区は、四賀、奈川、安曇の 3 地区ですが、公民館図書室を有する四賀・奈川の図書室とは、図書館資料の返却を受け付け図書館にメール便で返却するサービスを実施しています。

エ ネットワーク化

現在松本市の図書館は10館の分館を擁し、さらに信州大学医学部附属病院患者図書室(愛称「こまくさ図書室」)とも同一の図書館コンピュータシステムを介してネットワークを組むと同時に、信州大学附属図書館中央図書館とも前述の覚書締結に伴い、相互の連携を深めています。

平成6年4月に本郷公民館図書室を含む全6館がコンピュータシステムで結ばれ、ネットワーク化が図られました。これによりどこの館でも借りることができ返却することができることとなりました。また、翌年には、同一システムを採用する当時の波田町立図書館ともネットワーク(アルペン・ハーモネット)を組み連携が図られることとなりました。

その後、前述のとおり平成21年3月21日に「松本市中央図書館及び信州大学医学部附属病院患者図書室における図書館業務の連携に関する協定」が締結され、ネットワーク化して相互連携が図られています。

以上が、当館の沿革及び概要ですが、その他を含めた123年の歩みを、参考までに次に記します。

【松本市の図書館123年の歩み】

[明治]

- 24. 5 松本小学校長寄藤好実氏が同校に「開智書籍館」と名付けて創設
- 39. 9 旧藩の書籍と松原栄氏等寄贈の資料充実により規則を制定。「開智図書館」と改称し市民に一般公開

[大正]

- 10. 2 北深志葵の馬場武徳殿書庫を増設して移転し、「松本図書館」と改称して専任職員を置く。(市営図書館化)

[昭和]

- 3.11 優良図書館として文部省から選奨
- 12. 4 条例改正により「市立松本図書館」と改称し、夜間開館を行う。
- 13. 7 二ノ丸町、旧松本中学校校舎を増改築して移転
- 18. 9 葵の馬場に再移転
- 26. 4 図書館法の規定によって、条例、規則を大幅に改正し、参考事務、巡回文庫、視聴覚教育等の活動をはじめ。
- 27.11 P T A 母親文庫を実施する。小笠原忠統館長による読書会が盛んになる。
- 34. 4 大名町地方事務所跡へ、葵の馬場から移転
- 39. 4 条例、規則を全面改正し、日曜休館とする。
- 43. 1 開智2丁目の新館に、地方事務所跡から移転
- 53. 6 重度身障者家庭配本事業(やまびこ文庫)を始める。
- 54.10 あがたの森に第1号の分館として「あがたの森図書館」開館(貸出しはブラウン方式)

55. 6 当館所蔵の『宋版漢書』60冊(慶元刊本)が国の重要文化財に指定される。
9 松本市図書館協議会発足
59. 6 「西部公民館図書室」開室
60. 4 本館の貸出し方式をブラウン方式に改める。(1人3冊2週間)
62. 4 「南部公民館図書室」開室
- [平成]
2. 4 西部公民館図書室が「西部図書館」(分館)となる。
5 《なんなんひろば》に「南部図書館」(分館)がコンピュータシステムを導入して開館(1人5冊2週間)
3. 4 「寿台公民館図書室」開室
10 本館が移転新築(「松本市中央図書館」に名称変更)し、コンピュータシステムを導入して開館
4. 4 あがたの森図書館と中央図書館とのオンライン化
5. 4 寿台公民館図書室が「寿台図書館」(分館)となる。
5 西部図書館が移転新築開館
6 サンフランシスコ在住の日系二世中沢望東子氏寄贈による〈中沢文庫〉開設
7 寺澤畔夫・國子夫妻が大正から平成までアメリカで発刊した日本語新聞『ユタ日報』の全号(11,876号)を受入れ。
6. 4 「本郷公民館図書室」開室
全6館がコンピュータオンライン化(1人10冊2週間)
視覚障害者への朗読ボランティア開始
- 6 中央図書館近くの住宅街で松本サリン事件発生。サリン精製法を詳述したスリラー小説「みどりの刺青」の貸出しについて問題をおこし、図書館声明を発表するとともに利用者懇談会を開催(8月)
- 11 資料集『図書館の自由ってなんだろう!』発行
7. 1 中央図書館前に『普選実現運動発祥の地』記念碑建立。併せて〈普選文庫〉設立
3 〈中山文庫〉寄贈受入れ。
4 波田町立図書館とコンピュータを結んでの広域図書館ネットワーク、愛称「アルペン・ハーモネット」の稼働開始
5 CDの貸出し開始(中央図書館・南部図書館)
7 島内土地改良区から〈島内農業文庫〉寄贈受入れ。
8 終戦50周年平和記念事業として中央図書館に「平和資料コーナー」設置
また、『ユタ日報復刻版』全7巻刊行
10 第1回図書館まつり開催
8. 10 所蔵漢籍中から角筆文献発見

- 南部図書館の開館時間（条例は 20 時まで、運用により 22 時まで）の検討がマスコミ等によりクローズアップ。市内 6 館全館で利用者懇談会を開催
9. 4 図書館コンピュータシステムを更新
貸出カードの有効期限を 3 年に、CD の貸出は 1 人 5 点 1 週間までに変更
中央図書館、南部図書館に利用者用検索端末設置
10. 4 市内全 6 館に利用者用検索端末設置終了
4 本郷公民館図書室が「本郷図書館」（分館）となる。
13. 4 6 館目の分館として中山に「中山文庫」を開館（4 / 17）
ブックスタート事業を開始
やまびこ文庫の貸出をリクエスト方式にして、配本を宅配業者に委託
また、公民館等への施設配本を貸出方式化とする。
5. 7 7 館目の分館として島内に「島内図書館」を開館（5 / 10）
分館メール業務を業者委託
14. 2 インターネットへの図書館蔵書検索サービスを開始（2 / 1）
4 図書館コンピュータシステムを更新
OPL マークから TRC マークに変更
ビデオの貸出を開始。これに伴いビデオ・LD の館内視聴を廃止
8 館目の分館として今井に「空港図書館」を開館（4 / 18）
12 重要文化財『宋版漢書』を松本市美術館で保存するため移管
15. 9 旧制松本高等学校保存整備事業の一部完了に伴い、あがたの森図書館を北棟から整備が完了した西棟に移転（開架部面積 119㎡から 165㎡に増加）
16. 10 中央図書館の休日開館を開始
11 中央図書館 3 階の第 1・第 2 会議室を、使用予定のない平日に学習室・閲覧室として開放することを開始
17. 6 中央図書館にパソコンコーナーを設置（インターネット利用席：4 席、持込パソコン席：4 席）
11 中央図書館 3 階の視聴覚室に机・イスを配備し、土・日・祝日、長期休業、受験期（1～3 月）に学習室・閲覧室として開放することを開始
18. 6 信濃毎日新聞データベースの提供を開始
7 朝日新聞データベース「聞蔵」の提供を開始
10 図書館サポーターを募集し、ボランティアによる整架、配架などの活動を開始
19. 4 図書館コンピュータシステムを更新
松本市・波田町広域図書館ネットワークに関する実施協定の見直しにより、共通カードによる相互利用を開始
5 インターネット予約開始（5 / 9）
11 図書館広域利用事業開始に伴い、松本広域連合区域内に通勤・通学する者も登録が可能となる。

- 20. 10 DVDの貸出を開始
- 21. 3 「松本市中央図書館及び信州大学医学部附属病院患者図書室における図書館業務の連携に関する協定書」調印（3 / 23）
 - 4 中央図書館の開館時間を、午前 10 時から午前 9 時 30 分に繰り上げ。
 - 5 信州大学医学部附属病院患者図書室（愛称「こまくさ図書室」）オープン（5 / 7）
- 22. 3 松本市と波田町の合併により「波田図書館」が 9 館目の分館となる。（3 / 31）
 - 7 「信州大学附属図書館と松本市図書館との連携協力に関する覚書」締結（7 / 15）
これに伴い、貸出資料の相互返却を松本市中央図書館及び信州大学附属松本合同図書館（現信州大学附属図書館中央図書館）との間で実施
- 23. 2 視覚障害者用デジタル図書（デイジー図書）の貸出を開始
 - 4 四賀及び奈川地区の公民館図書室において、図書館資料の返却が可能となる。
- 7～8 土・日・祝日の中央図書館開館時間延長の試行を実施（午後 6 時までの 1 時間延長）
- 24. 4 図書館コンピュータシステムを更新。リライト式カード化
 - 5 10 番目の分館として「梓川図書館」を開館（5 / 11）
 - 12 図書館単独のホームページを開設
- 25. 1 蔵書が増えてきたことなどに伴い「山岳文庫コーナー」を拡充
 - 4 新たな情報発信ツールとして「図書館だより」を発行（以降毎月 1 日発行）

3 所蔵する特別文庫

中央図書館には、「崇教館文庫」をはじめとして 16 の特別文庫を所蔵し、このほか「中山文庫」を中山に、「島内農業文庫」を島内に所蔵するとともに、その他、故有賀義人信州大学名誉教授の自由民権運動に関する研究資料（整理中）などを所蔵しています。概要は別添一覧に記載しましたが、ここでいくつかを紹介させていただくこととします。

〈崇教館文庫・松原文庫・柴田文庫〉

松本藩の藩士やその子弟に文武など講義するための藩校としての「崇教館」（寛政 5 年～明治 3 年）及びその後「松本藩校」と改称した藩校で使用された書籍で、「四書五経」の漢籍や「大日本史」「群書類従」などの和書約 13,000 点を〈崇教館文庫〉として所蔵

あわせて松本藩士漢学者の松原葆斎の旧蔵本の和漢書などで、明嘉靖刊「中説」などの〈松原文庫〉や、崇教館助教儒者であった柴田利直の漢籍で「漢書評林」などを含む貴重資料約 2,700 点となっています。

〈山岳文庫〉

昭和 45 年 10 月 25 日に松本南ロータリークラブから創立 10 周年記念事業として松本市に 100 万円が寄付されたものを原資に山岳関係図書資料の収集を始め、昭和 46 年 2 月 10 日に〈山岳文庫〉として公開しました。

文庫創設から 40 年がたち、蔵書も 6,000 冊を超えることとなったことなどから平成 24 年 12 月に

コーナーの拡充を図り、開架書籍を従前の 1,500 冊から 3,500 冊に増やしました。



稀覯本としては、志賀重昂の「日本風景論」や高頭式（たかとうしよく）が記したわが国最初の山岳百科事典「日本山岳嶽志」、日本近代登山のパイオニア小島烏水の「日本アルプス」（全 4 巻・写真は右が第 1 巻・左が第 2 巻）や「木蘭舟」「不二三」、その他日本山岳会の機関雑誌「山岳」を創刊号からの完全揃本や、「山と溪谷」「岳人」「岩と雪」などの山岳雑誌も古くからのものを所蔵しています。

〈ユタ日報〉

日本語新聞『ユタ日報』発行者の寺澤畔夫・國子夫妻が長野県出身者であったこと、夫妻が海を越えて渡った先の米国ソルトレークシティが松本市と姉妹都市関係（1958 年提携）にあったことなどから、1914 年（大正 3 年）の創刊から 1991（平成 3 年）の終刊まで 77 年間発行し続けた全号（11,876 号）と、活版印刷の鉛活字や組版など寄贈いただいたもので、新聞は太平洋戦争中も発行し続けられ、アメリカ国内から見た日米関係や当時の日系社会の様子などが見て取れる貴重な資料となっています。（写真は、1991 年春最終号の版組で、実際には新聞として配布されなかった幻の 11,877 号）



その他の文庫を含めた中央図書館が所蔵する文庫は、以下のとおりです。

【中央図書館特別文庫一覧】

文庫名	寄贈年月日	寄贈者	文庫の内容
崇教館文庫	M39年9月 移管入手		松本藩の崇教館(寛政5～明治3)、松本藩学校(明治3～4)で使用した書籍で『四書五経』の漢書や『大日本史』『群書類従』などの和書がある。約13,000点
松原文庫	M39年11月	松原栄氏	松原葆斎(松本藩士漢学者)所蔵の和漢書 明嘉靖刊『中説』などの貴重資料
柴田文庫	H7年8月	柴田利政氏	曾祖父柴田利直(崇教館助教儒者)所蔵の主として漢籍 『漢書評林』等を含む貴重資料。約2,700点
小穴文庫	S29年10月	小穴みどり氏	故小穴喜一氏所蔵の285点の法帖を中心とした書道関係資料 で、『万葉集』『古今和歌集』の古写本の複製あり。
本庄文庫	S43年1月	本庄武男氏	寄贈された基金により創設されたもので、『名著復刻全集』250 点や美術書が中心。一般の蔵書として組み込まれているものが多い。
山岳文庫	S45年10月 ～	松本南 ロータリークラブ	松本南ロータリークラブより寄贈された基金をもとに創設され た山岳関係図書。アルプスの玄関口にふさわしい文庫として、日 本山岳史上貴重な資料を所蔵。継続して毎年10万円の寄付あり。 現在約6,500点
石曽根文庫	S48年5月 ～	石曽根民郎氏	川柳作家、研究家の石曽根民郎氏より寄贈の全国の川柳雑誌、 同人誌など700タイトル(約3万冊)を越える全国唯一のコレクション。 古川柳研究者 清博美氏(静岡県在住)のボランティアによる リストあり。月々追加の同人誌あり。
折口文庫	H2年10月	竹内貞氏	長年にわたって竹内氏が収集した折口信夫に関係した資料。県 内での折口の足跡を知る上で貴重な資料。約2,000点
栗本文庫	H3年6月	栗本いく氏	栗本勤信州大学名誉教授の愛蔵書によるコレクション。ドイツ、 日本の哲学や社会科学関係資料を中心に約2,300点。なお、515 万円の基金も同時に寄付され、新図書館オープンのための資料整 備費用として活用された。
中沢望東子 文庫	H3年2月	中沢望東子氏	サンフランシスコ在住で松本市との縁が深い日系二世の中沢望 東子氏より寄贈された基金(500万円)をもとにH5年6月に開 設されたコレクション。広くアメリカを紹介し日米文化の交流をす ずめる英語の図書や絵本を中心に収集。約2,000点
ユタ日報	H5年7月	寺澤和子氏 森安治子氏 (姉妹)	明治末年に信州からアメリカへ移住した寺澤畔夫・國子夫妻が ユタ州ソルトレークシティにおいて発刊を続けた日本語新聞。1914 年(大正3年)に創刊され、1991年(平成3年)まで大戦中も途 切れることなく発刊を続けた世界的に貴重な資料。全号そろった ものは世界に二通りしかない。77年間の新聞11,876号が、月別 に仮綴じしてある。 第6,719号(1941年)～第7,449号(1945年)の完全復刻版 全7巻あり。

普選文庫	H7年1月	普通選挙実現運動発祥の地記念碑 建立委員会	明治30年7月、松本において普通選挙期成同盟会が結成されて普通選挙制度獲得運動（普選運動）が全国にさきがけて始まったことを記念して「普選運動発祥の地」記念碑を中央図書館の敷地内に建立、併せて普通選挙実現に関する図書資料（50万円相当）が寄贈された。約300点。
池上文庫	H6年	池上二良氏 池上良平氏	文化課より百竹亭池上文庫の資料の一部を移管。新聞、雑誌を含む。約700点。
浅井冽文庫	H6年		浅井冽に関係のある資料を購入。約300点。
中山文庫 (中山文庫)	H7年3月	折井英治氏	平成13年度開館した中山文庫で所蔵する、折井氏個人の中山文庫からの寄贈図書。寄贈受入れは19年度で完了。(130,979冊)
島内農業文庫 (島内図書館)	H7年7月	島内土地改良区	島内土地改良区の解散に当たり、農山漁村文化協会の出版物4,000点や和田照雄東京大学農学部名誉教授の蔵書多数が寄贈されたものを島内図書館に所蔵 現在でも農文協の出版物を収集。約5,000点。

4 利用状況の推移

最後に、利用状況の推移ですが、先にも触れたように昭和42年当時7万3千冊であった蔵書は、現在では松本市図書館全体として116万冊と約15.9倍に達し、貸出冊数については当時の8千冊に対し163万冊と比較にならないほどの状況となっています。

平成に入り分館化を推し進めた結果現在10分館を擁し全体で11館体制となっていますが、現在の図書館ができた平成3年度と比較してみますと、蔵書冊数が33万4千冊から3.5倍に、貸出冊数では38万6千冊から4.2倍に、こちらも急激な増加となっています。

また、ここ数年の状況を見ますと、蔵書数、貸出数、登録者数、利用者数は概ね緩やかな増加傾向にあります。団体貸出については一定の状況が定着している感があります。そのようななか近年は、調査・相談（レファレンス）業務及び予約冊数が著しく伸びてきています。レファレンスが伸びた要因は把握できていませんが、予約件数についてはインターネット予約が伸びているため、平成24年度は携帯電話からの予約も可能となったことから大幅な増となったものです。

利用の推移について末尾に参考の表を示しましたのでご覧ください。

【本稿を記すにあたって参考とした主な資料】

- ・『松本市・塩尻市・東筑摩郡誌』
- ・『松本市史』
- ・『資料開智学校』
- ・『松本市教育百年史』
- ・『ユタ日報復刻版』
- ・『松本市の図書館1993』ほか各年度『図書館概要』
- ・(松本市)各年度『事務報告書』

分館整備に伴う図書館利用の推移

館名	開設年月	中央	あがたの森	西部	南部	寿台	本郷	中山	島内	空港	波田	梓川	合計	備考
		S43.1 移転新築 H3. 10 現在地移転新築	S54.10	H2.4	H2.5	H5.4	H11.4	H13.4	H13.5	H14.4	H22.3	H24.5		
昭和42	貸出冊数	7,822											7,822	本館1
	蔵書冊数	73,025											73,025	
昭和54	貸出冊数	81,533	12,342										93,875	本館1
	蔵書冊数	144,103	2,355										146,458	分館1
平成2	貸出冊数	96,748	31,128	13,593	162,974								304,443	本館1
	蔵書冊数	247,519	13,466	10,769	43,500								315,254	分館3
平成3	貸出冊数	150,497	34,105	12,033	188,931								385,566	本館1
	蔵書冊数	255,407	15,376	12,457	50,741								333,981	分館3
平成5	貸出冊数	267,832	38,172	29,075	204,078	32,446							571,603	本館1
	蔵書冊数	307,789	19,242	21,387	63,571	14,851							426,840	分館4
平成11	貸出冊数	455,922	65,125	90,928	234,484	76,971	70,415						993,845	本館1
	蔵書冊数	432,923	23,146	31,876	73,860	24,644	32,201						618,650	分館5
平成13	貸出冊数	443,795	65,715	88,718	239,382	73,594	77,929	24,837	64,188				1,078,158	本館1
	蔵書冊数	444,205	25,552	34,982	73,727	27,767	32,873	103,281	27,912				770,299	分館7
平成14	貸出冊数	476,153	66,039	80,090	217,367	72,197	73,536	29,097	81,249	93,087			1,188,815	本館1
	蔵書冊数	452,143	25,390	34,561	75,029	28,506	33,105	110,558	34,873	25,074			819,239	分館8
平成22	貸出冊数	558,672	96,877	83,998	259,927	105,028	78,538	46,263	93,903	133,183	119,771		1,576,160	本館1
	蔵書冊数	563,413	25,211	34,290	70,853	29,844	33,842	155,196	39,213	46,899	90,856		1,089,617	分館9
平成24	貸出冊数	559,083	108,344	78,983	249,364	98,809	83,438	46,780	82,741	116,652	98,301	107,709	1,630,204	本館1
	蔵書冊数	595,051	24,213	33,563	68,898	29,684	31,525	156,618	40,547	48,202	92,283	31,889	1,152,473	分館10

注：波田図書館の分館化は平成21年度末日のため、利用状況は実質的な22年度を掲示

利用実績の推移

年度	開館日数 中央	蔵書冊数		貸出冊数		登録者数		利用者数		団体貸出	調査・相談	予約	備考
		(冊)	うち児童	(冊)	うち児童	(人)	うち児童	(人)	うち児童	(冊)	(件)	(冊)	
1980 (S55)	271	159,344	29,179	117,078	40,495	6,282	2,328	45,634	20,493	62,071	1,579		
1990 (H2)	272	315,254	103,343	304,443	122,847	16,913	3,784			151,063	7,637		
2000 (H12)	269	650,589	168,150	985,514	321,682	48,680	9,931	261,431		51,197	21,459	28,257	
【直近5年】													
2008 (H20)	282	983,567	207,271	1,441,242	485,403	101,501	9,085	340,952	49,196	32,784	6,193	91,510	web予約(51,533)
2009 (H21)	281	996,549	211,545	1,479,206	494,393	115,210	10,090	350,819	49,649	30,851	7,288	113,736	web予約(66,962)
2010 (H22)	281	1,089,617	244,787	1,576,160	552,952	118,463	10,276	374,693	56,120	32,008	6,423	120,311	web予約(74,320)
2011 (H23)	277	1,102,958	250,385	1,568,361	571,623	120,357	10,557	371,665	61,664	31,900	8,221	121,981	web予約(78,739)
2012 (H24)	279	1,152,473	267,225	1,630,204	612,119	124,798	16,678	408,666	68,141	32,894	13,191	147,487	web予約(108,351)

注1：空欄は、統計数値が不明なもの

注2：1990 (H2) の行中、「貸出冊数」及び「登録者数」欄の「うち児童」には、中央館分が不明のためその分を含まない数値

注3：団体貸出には、「やまびこ文庫」利用配分を含む。

注4：web予約は2007 (H19) 5月9日から開始で、2007の実績は70,261件。うちweb予約30,968件

